

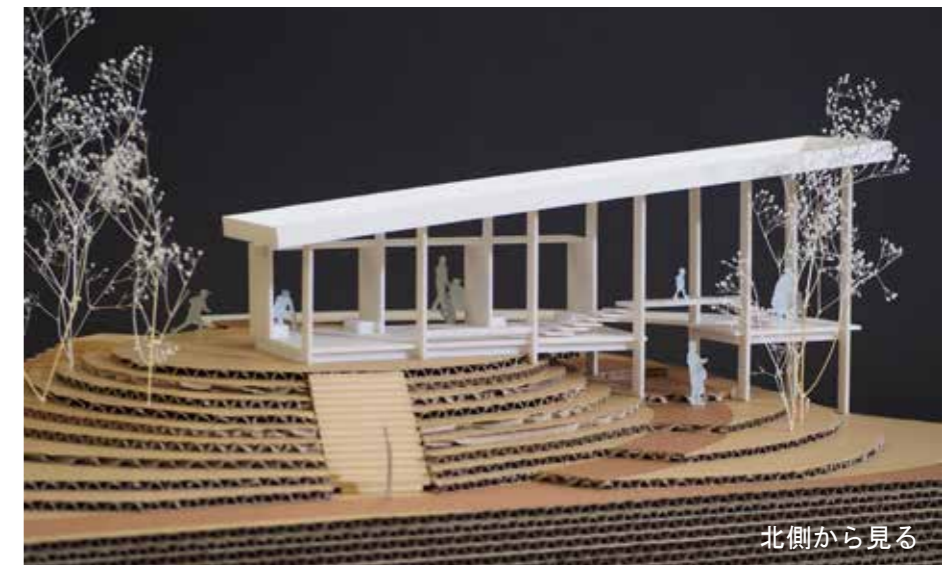
丘の上 - 敷地形状を読み解く -



全体模型



休憩所にて景色を眺める



北側から見る

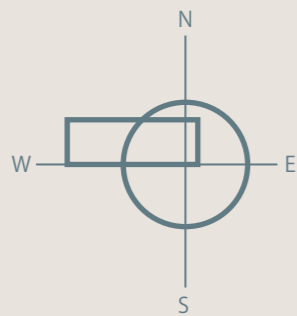


南側から見る

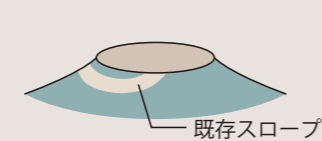
1 テーマ設定

・この丘の上に建てる建築はどのようなものか。「丘という敷地形状を最大限活用する」というテーマで設計を進めた。

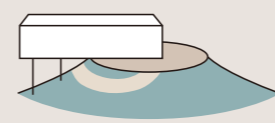
・丘の上から展望台をはねだすことにより、休憩所の前面に平らな半弧のオープンスペースをつくり出す。夕日の沈む方向にむけられた展望台、景色のひらけた南側に向けた休憩所の提案。



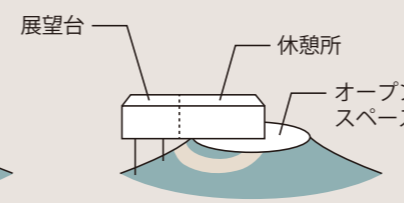
2 丘に建てる



1. 計画敷地は、円形の平地がある丘の上。

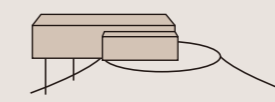


2. 円形の平地からはねだした建築を考える。はねだした部分は柱で支持する。

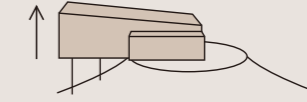


3. 建築は展望台と休憩所に分けられ、オープンスペースと合わせて3つの空間で構成される。

3 かたちのダイアグラム



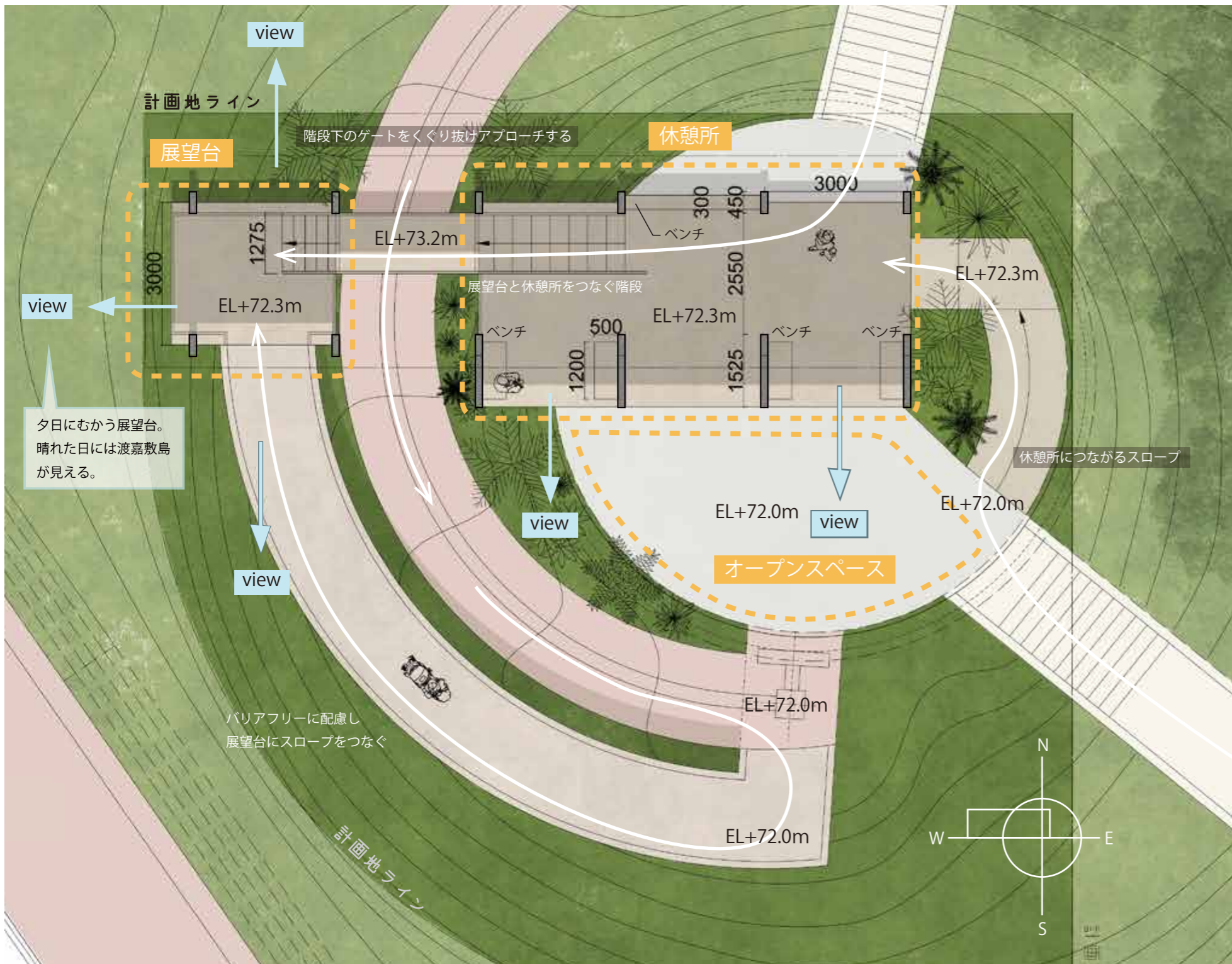
4. 休憩所を南側に飛び出すように作り、座って景色を眺められるように計画。



5. 展望台の屋根を高くして空間に変化をつける。



6. 車椅子やベビーカーの利用者に配慮し、展望台につながるスロープを新設する。



■ 平面図・配置図 (縮尺: 1/100)

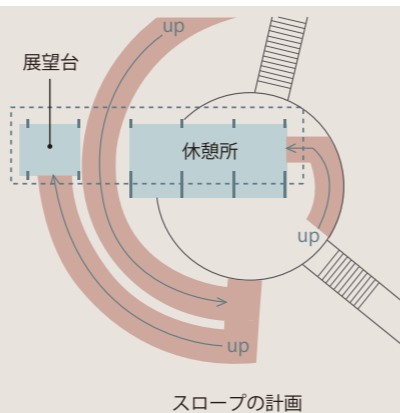
・休憩所、展望台、オープンスペースという3つの空間で構成される。訪れる人々は、階段下のゲートをくぐり抜け、まずはオープンスペースにアプローチする。オープンスペースからはスロープを介して休憩所と展望台にアプローチできる計画である。先程くぐり抜けた階段によって休憩所と展望台は繋がっている。3つの空間はそれぞれ行き来できる、回遊性の高い構成を目指した。

4 配置・外構計画

- ・既存園路や既存樹木を残し、現状の敷地を最大限活用する計画とした。
- ・外構には塩害に強い植物を植栽し、緑豊かな環境をつくる。
- ・切土・盛土は最小限とし、現状の丘の形状を維持し、十分な地盤強度を保つ計画とする。

5 建築計画

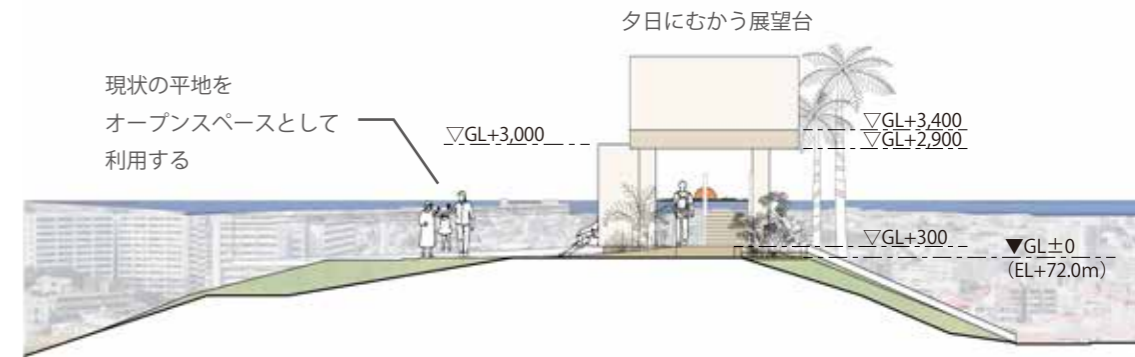
- ・高台にあることから風が強く、吹き上げ荷重が大きいため、軒の出を十分に抑えた計画とした。
- ・バリアフリーに配慮し、車椅子やベビーカーの使用者が展望台、休憩所それぞれにアプローチできるよう計画した。



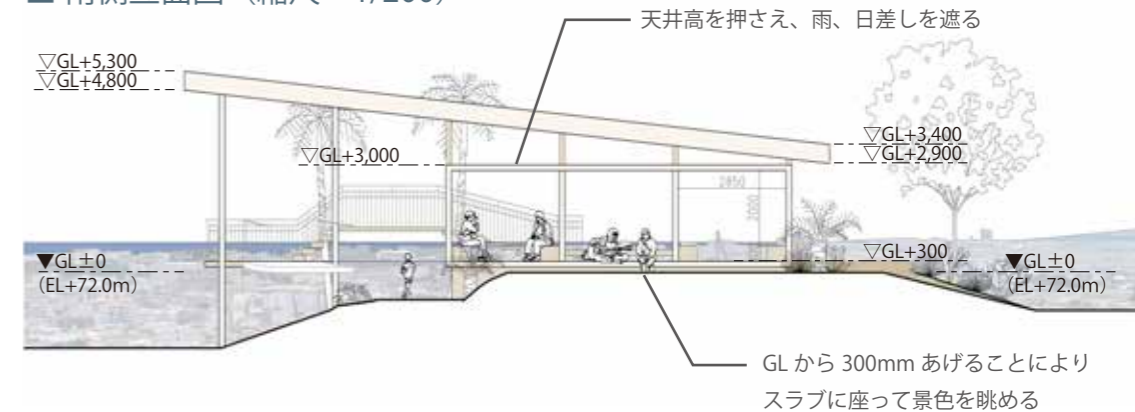
6 維持管理計画

- ・塗装は、耐塩害性の高い塗料を採用することで、台風や塩害に配慮した計画とする。
- ・オープンスペースの床タイルについては、汚れにくい、滑りにくい素材を選定し、採用する。
- ・開放的なつくりにすることで、視認性を高め、防犯に配慮した。

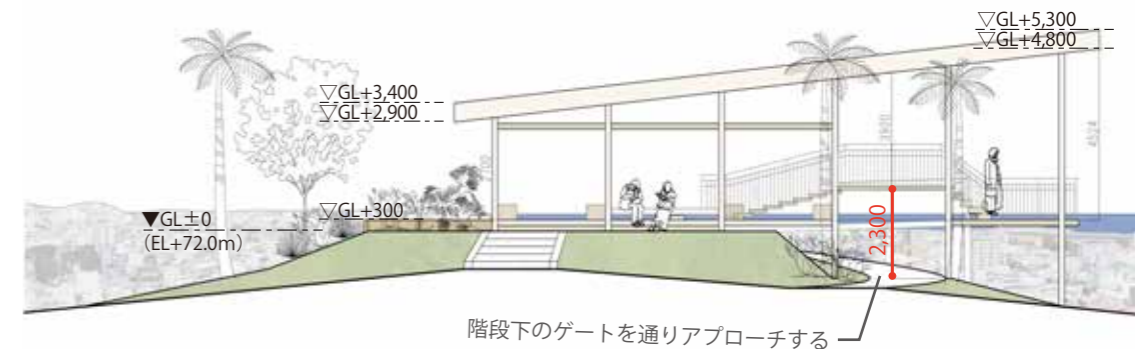
■ 東側立面図 (縮尺: 1/200)



■ 南側立面図 (縮尺: 1/200)



■ 北側立面図 (縮尺: 1/200)



建築概要

用途	: 休憩所・展望台
規模	: 構造 鉄筋コンクリート造
	階数 地上1階
	敷地面積 340.0 m ²
	建築面積 48.0 m ²
	延床面積 48.0 m ²
仕上げ	: 屋根 コンクリート金ゴテ押さえの上 ウレタン塗膜防水
	外壁 コンクリート打ち放しの上 複層塗材E (高耐候性)
	床 コンクリート 金ゴテ押さえ

